



戦いがおわると、次の試合を少しでも良い条件のグラウンドでやらせようと会場係の少年たちの活躍が始まる。

遠藤さんのお宅では5人の選手の民泊を引き受けた。選手たちは、心からのもてなしに「来年の国体にもぜひ代表となってもう一度きたい。」といていた。



当日は、受付接待に婦人団体100人、警備に消防団員115人、競技役員、大会係員の補助員に中・高校生、ボーイスカウトなど約300人が参加して大きな力をかけた。

岩手国体を来年にひかえ、各地で本番さながらのリハーサル大会が開かれています。これは、各会場がそれぞれ分担している競技種目の全国選手権大会などを開き、競技の運営はもちろん、輸送、接待、民泊などで、国体を予想しながら、国体の演習として実施しているものです。ことしは八月未までに、盛岡市など十市町村で十六種目のリハーサル大会が開かれました。各リハーサル大会とも、参加選手、役員から好評で、このぶんでは岩手国体の成功うたがいなしという声も聞かれます。ここ岩手町の総合グラウンドでも、八月二十三日から二十五日まで、全日本実業団ホッケー選手権大会がリハーサル大会として開かれました。

熱戦を見守る観客のかけで、ボーイスカウトの少年たちが黙々とゴミひろいをつづけていた。



役員、係員のテント部落の一面には救護所も開かれていた。

